



発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四糸ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字: 栢木寛照

えとす



令和3年 8・9月合併号
No.333

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

菅政権僅か1年の短命内閣 思わぬコロナでつまづく



退陣表明の記者会見に臨む菅首相
(出典: 首相官邸ホームページ)

新首相に課せられた大きな責任
昨年8月、安倍首相の突然の退陣によって、本命候補をよそ目に、全く予期しない形で、菅首相が誕生した。菅首相は、秋田県の農家出身で、高校卒業後、単身上京、苦労を重ね、横浜で市会議員を経験し、衆議院議員に当選、当選8回で、内閣総理大臣に上り詰めた。今太閤と言われた田中角栄総理と同様、菅総理はまさにたたき上げの政治家である。生き馬の目を抜く政界にあつて、名望家出身でもなく、徒手空拳、最高位にまでたどり着いた菅首相は、単なる運だけでなく、非凡な才能があるのだろう。本人はあれもしたい、これもしたいと抱負があつたに違いない。コロナがこれほど蔓延するとはだれも想像出来なかつた。コロナで誕生した首相が、志半ばで、コロナで退陣するとは皮肉なことである。後継者が誕生するころには、コロナ感染者はかなり減少に向かつているであろう。新首相は菅首相の分までも働いてもらわなければならない。

恒心

★ニューヨークのワールド・トレードセンタービル(WTC)が、アルカイダのテロ攻撃で、倒壊してから早くも20年の月日が経過した。日本人含め、3000人近い人たちが犠牲となった。飛行機でビルに激突という過去に見

たこともないテロに世界の人々は衝撃を受けた。★先日、かつての市会の同僚から、電話が掛かってきた。「先生、ニューヨークのWTCに行つてから20年になるのやない。テレビで放送を見ていると、あのときのことを思いだすわ」という内容であつた。★当時、京都市会では、2期以上の議員は、任期中に一度、海外視察調査に行くことが出来た。視察団は超党派で構成する。視察先、視察内容は自由であるが、京都市の姉妹都市を訪問先に含めることが、条件であつた。★2001年8月下旬、私が団長となつて、アメリカに視察に行くことになった。「百聞は一見に如かず」という諺がある。各地を色々見ることは勉強になる。シカゴ、トロント、ボストン、ワシントン、ニューヨークの諸都市を訪問した。★訪問地、視察内容は団員の希望も聞き、私が中心となつて取りまとめた。たびたび、行くことも出来ないのだから、中身の濃い内容にしなればならないと考えた。たまには、美味しいものをたべたいと思つていた時、雑誌「家庭画報」を見た。★家庭画報に、WTCにあるレストラン「ウインドウズ・オン・ザ・ワールド」が紹介されていた。写真を見て、ぜひ行つて、食事をしたいという衝動に駆られた。レストランは110階建超高層ビルの106・107階にある。食事もあることながらレストランから眺めるニューヨークの夜景は素晴らしかった。★アメリカ視察から帰つてまもなく、私たちの思い出に残るレストランがビルごと崩壊してしまつた。あと2週間遅れて食事をしていたら、私たち市会の視察団もテロの犠牲となつていたかも知れない。毎年9月11日が来る度に、我が事のように思い出される。

自民党参議院次期候補者 京都市会議員

吉井あきら氏を擁立

6月4日、二ノ湯参議院議員は、西田京都市連会長に対し、来年実施される参議院通常選挙に立候補しない旨を伝えた。そして、6月6日に行われた自民党府連定期大会で、二ノ湯議員は、出席した京都府議会議員、京都市会議員の前で、公式に今期限りを持って、政界を引退することを表明した。京都府連では、府議会、京都市会議員を対象を絞って、次期候補の希望者を募った結果、双方の議会から1名ずつの議員が名乗りを上げた。府連執行部としては、出来るだけ円満に候補者を選出したいとして、両陣営の話し合いによる決着を図るように努力を重ねた。しかし、双方とも譲らず、投票によって、候補者を決めることになった。9月12日、選挙対策常任委員会のメンバー49名全員が出席し、投票が行われた。投票前に候補者である京都市会議員の吉井あきら氏、次いで京都府議会議員の荒巻隆三氏が、それぞれ10分間、立候補に当たったの所信を述べ、投票に入った。僅か49名の投票者であり、投票は20分足らずで終わった。結果が判明するまでは、会場内はかなり張り詰めた感じであった。投票数の内訳は公表されず、西田府連会長が、吉井あきら氏が当選したと発表しただけである。後にしこりを残さないために従来から、京都府連はその形式を採用している。

結果を厳粛に受け止め 必勝を誓う

次期参議院議員候補者選考は、京都府議会、京都市会の戦いの様相となってきた。現在、京都府選出の参議院議員は、京都市会出身の二ノ湯智氏、京都府議会出身の西田昌司氏になっている。これは偶然であり、必ずしも、府議会、市会が交互に選出されている訳ではない。従って、京都市会出身の二ノ湯議員が引退したといっても、後任は京都市会の指席ではない。その時に国会議員として、最もふさわしい人が選ばれれば良い。とは言っても、双方の議会のメンツもあり、なかなか難しい。選考後、しこりが残ったままでは、選挙戦に勝ち抜くことは困難である。戦うには、現職、そして京都府議会、京都市会の挙党一致の支援態勢が必要である。投票結果が判明した後、二ノ湯参議院議員、吉井あきら氏、荒巻隆三氏の3人が、固く握手を交わし、来年夏に実施される参議院選挙での吉井あきら氏の必勝を誓った。



一致結束必勝を誓う3人
左から吉井、二ノ湯、荒巻の各氏

参議院選に向けての 吉井氏の抱負

二ノ湯参議院議員の後継者として、来年、夏の選挙に挑戦することになりました京都市会議員の「吉井あきら」です。今、身の引き締まる思いと同時に責任の重さを感じております。私の信念は、我が国の誇りを大切に、そして、秩序ある資本主義社会の中で活力を生み出す事。また、国民の強みでもある「絆」を活かし、真面目に頑張っている人が報われる公正な社会を創り出す事です。まずは、コロナ対応と同時にコロナ禍で痛んだ国民生活を(大規模な財政出動による)経済対策等によって浮揚させる事が、私

には求められていると考えます。そして、これからの時代、少子高齢・人口減少社会の中で、1つの自治体だけで発展することは非常に厳しい状況であると言わざるを得ません。だからこそ、自身の地方議会の経験も十二分に活かし、「府市協調」の中で、京都の底力を引き出し、府内全域を発展させることで、令和の次代を切り拓けるものだと確信しています。『様々な意見を集約して政治を進めていくためにはバランスが大切である。』すなわち、『信なくば立たず!』。これは私の信条です。しっかりと、皆様方との信頼関係を構築し、京都のために、日本のために、頑張る覚悟です。何卒、宜しくお願い致します。



プロフィール

昭和42年1月2日 山科区生まれ
昭和60年3月 洛南高等学校 卒業
京都産業大学 中退
平成13年 自民党京都府第二選挙区支部長・
山本直彦秘書

平成17年 衆議院議員山本ともひろ公設第一秘書
平成19年 京都市会議員初当選
平成23年 京都市会・教育福祉委員会委員長
平成25年 自民党京都市会議員団代表幹事・京都市会連営委員理事
平成27年 京都市会連営委員会委員長
平成31年 自民党京都府連幹事長
令和2年 京都市会・予算・決算特別委員会委員長
現在
京都市会議員(当選回数：4回)
京都市監査委員
京都橋大学客員教授

自民党総裁選挙 最後までやきもきさせた石破氏

菅総裁の後任を選出する自民党総裁選挙が、9月17日告示された。選挙管理委員会に立候補を届け出た候補は、河野、岸田、高市、そして野田の4氏であった。9月2日、菅総裁の次期総裁選挙への不出馬表明を受けて、党内には色々な動きがあった。先ず名乗りを上げたのは岸田氏。氏は菅総裁の態度表明に拘わらず、立候補の意思を明確に表明していた。高市、河野の両氏は菅総裁の退陣表明を受けてからの出馬の動きである。初めて総裁候補に手を上げた高市氏の勇気を讃えた。河野氏は党内若手議員の期待を担ったのは、石破氏であった。石破氏は過去4回、総裁選挙に出馬しており、知名度は高く、毎回総裁選挙では多くの党員票を獲得している。多くの人は、今回も当然出馬するものと思っていたが、最後まで態度を明確にせず、結局出馬をあきらめた。政治家石破氏のイメージを大きく失墜させたことは残念である。以前から、初の女性総理大臣を目指し、過去何回も総裁選に挑戦しようと試みた野田聖子氏は、20人の推薦人確保が出来ず断念してきたが、今回は、本人の必死の頑張りで、土壇場になってやっと20人の賛同を得られた。29日の投票日まで、熱い戦いが繰り広げられる。後継は誰になるのか、多くの国民が注目している。

自民党総裁選挙に4人が届け出 各派閥議員の自主投票

菅後継を選ぶ総裁選挙は、17日告示されて、4人の衆議院議員が届け出た。今回、女性候補として高市早苗氏、野田聖子氏が名乗りを上げた。岸田、河野氏は2度目の挑戦である。今回の総裁選の特徴は、各派閥が単独の候補者を推薦せず、所属する議員の自主性に任せたことである。自主性とは聞こえはいいが、小選挙区制になり、派閥の統制が薄らいできているのが要因である。過去の総裁選挙は、候補者が、うち揃って全国各地を遊説、国民に政策を発表したが、今回はコロナ禍のため、各陣営ともかなり制限された選挙活動となる。

野田聖子候補 高市早苗候補 岸田文雄候補 河野太郎候補



第3区 木村 やよい

慶応義塾大学看護医療学部卒業
H26年衆議院議員初当選2期目
総務大臣政務官
自民党副幹事長



第2区 しげもと 護

神戸大学工学部卒業
伊東良孝衆議院議員秘書
H29年衆議院議員初当選
国土交通省国際調整官



第1区 勝日 やすし

東京大学法学部卒業
H9年・自治省(現総務省)入省
内閣官房副長官秘書官
総務省地域振興室長



第6区 清水こういちろう

大阪医科大学卒業
医療法人清水病院院長
H17年衆議院議員初当選
京都私立病院協会会長



第5区 本田 太郎

東京大学法学部卒業
H20年弁護士登録
H27年京都府議会議員初当選
H29年衆議院議員初当選



第4区 田中 ひでゆき

京都外国語大学卒業
H24年衆議院議員初当選3期目
国土交通大臣政務官
自民党副幹事長



自民党府連衆議院議員候補者を申請

9月12日、自民党京都府連選挙対策常任委員会が、11月上旬にも予想される衆議院議員総選挙において、京都府の6選挙区の公認候補者として、2・3・4・5区は現職、6区は清水こういちろう選挙区支部長、1区は勝日やすし予定候補者を党本部に申請することを承認した。

どうなる 自民党総裁選

菅首相の突然の総裁選不出馬に自民党が揺れている。総裁選の行方は混戦模様で、現在(9月10日)、岸田氏、高市氏が出馬を表明し、河野氏や石破氏、野田氏も出馬を模索している。

新型コロナウイルスの感染拡大で菅内閣の支持率が30%前後まで下落し、総選挙も目前に迫っていることもあって、地元有権者の厳しい反応に若手議員が浮足立ち始めている。いくら派閥の領袖が「永田町の論理」で支持をまとめようとしても、選挙基盤が不安定な若手議員は自分の選挙にとって誰が有利かという「選挙の論理」を優先するようになってきている。

小泉元首相以降、国民が求める政治リーダー像は確実に変わった。小選挙区制の導入やメディアの発展もあって、「発信力」や「共感」が不可欠の資質となった。コロナ禍という非常事態には平時以上にコミュニケーション能力が求められたが、菅首相の言葉は国民の心に届かなかった。また、昔の永田町の姿を彷彿とさせる二階氏などベテラン政治家の振る

舞いは、国民に「上から目線」「浮世離れ」「私利私欲」「特権階級」という印象を与えた。そうした国民感覚と永田町のギャップを若手議員は肌で感じ、菅首相・二階幹事長のコンビで選挙を戦えば自分は落選する、と危機感を覚えたのだ。

そういう観点で考えると私は、今回は河野氏が有利だと思う。多くの若手議員が派閥横断的に「選挙の顔」として河野氏を支持し、党員調査でも1番支持を集めている。小泉元首相の時ほどインパクトはないが、河野氏の歯切れの良さや突破力が国民に期待を感じさせている。もちろん、岸田氏の誠実さや寛容さも魅力的だ。特に、格差社会の是正や中間層の復活などの政策は時機を得ている。

河野氏の「若さ」や「個性」には危うさもつきまとう。ただ、長引くコロナ禍で鬱屈した国民の間には「危うさ」というよりも「可能性」と映るのではないだろうか。仮に河野氏が勝利すれば、安倍氏や麻生氏、二階氏といった重鎮支配の自民党の権力構造も微妙に変化し、党の世代交代は確実に進むだろう。

桜美林大学客員教授

一二之湯 武史

二ノ湯議員、岸田候補の推薦人

17日から自民党総裁選挙が始まった。総裁選挙に立候補するには、党所属議員の20人の推薦が必要である。支持はするが、推薦人として名前を出すのを躊躇する議員が多い。今回、二ノ湯議員は岸田文雄氏が最適の候補者として考え、推薦人に名前を連ねた。

身辺雑記

一、アフガニスタンから米軍が完全撤退した。タリバン政権による圧政を嫌って多くの人々が、国外に脱出しようと空港に殺到した。テレビであの光景を見ると、平和で安全な日本をつくづく有難いと思う。

一、2年半前、東京池袋で高齢者が運転する車に跳ねられ、母子2人が死亡した事故は記憶に新しい。加害者は、やっと自分の過失を認め、東京地裁での禁固5年の実刑判決に対し、控訴しない事に決めた。当然である。

一、菅総裁が次期自民党総裁選挙に出馬しないと表明した自民党臨時役員会に私も出席していた。淡々とした口調であったが、悔しさが滲み出ていた。総裁の突然の予期せぬ発言に、出席の役員達も一言も発言せず、ただ呆然としていた。

一、収まることのないコロナ感染症。これは誰の責任なのか。人流が大きな原因

だとすれば、人の往来を止めればよい。しかし、そんなことをすれば経済の停滞をもたらす。それ以前に、国民が納得するだろうか。

一、東京オリンピックが終了した。鍛え抜かれた選手たちの競技は流石だと思つた。一方、パラリンピックでは、残された運動機能の限界に挑戦する選手達の姿に感動した。障がい者の努力を健常者も見習いたいものだ。

一、コロナ感染以来、多くの行事が中止となっている。その為、外での飲食の機会がなく、アルコールを殆ど飲まなくなった。アルコールと健康の因果関係は分からないが、今年の健康診断での血液検査の結果は、全て基準値内であった。

一、9月13日で喜寿を迎えた。昔、小さい頃、農家の縁側で豆の皮むきなどをしていたお爺さん、お婆さん達の姿をよく見かけた。それでも77才にはなっていないかただろう。それを追い越しての年齢となってしまう。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会

年会費 1口1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228